

「膵疾患図譜」 膵管異常よりみた鑑別診断

大井 至 東京女子医科大学講師
小越 和栄 県立がんセンター新潟病院部長

東京都立荏原病院長 原 義 雄

このたび、医学書院より、大井・小越両先生による内視鏡的膵管造影法による膵管の異常よりみた鑑別診断のための「膵疾患図譜」が発行された。

この御二人は、あまりにも有名で紹介の必要はないと思うが、この御兩人こそが、この造影法の開拓者であり、また推進者たちでもある。そして、大井先生は主としてヨーロッパで、小越先生は主としてアメリカで、それぞれ大学の Visiting Professor として、あるいは、学会における招待講演者として招かれ、また実地指導にも当たられた方々で、この方法が、かくもひろく、速やかに世界にひろまったのは、実にこの御二人の献身的指導と研究的努力による賜物である。この御二人はそういった意味で、日本のみでなく、世界でその名が轟いている内視鏡学者で

ある。この両人のそれぞれのグループは、おそらく、日本で一番多くの症例と経験をもち、この御二人は実際に、毎日、自ら先頭に立って、これを施行しておられる真の実力者であり、経験者である。しかも、御二人は、この造影術の技術的なエキスパートであるばかりでなく、その経験と結果を体系づけ、絶えざる研究的態度を失わない若き学究の徒であるところに、何よりの魅力を感じるのである。

この書物の第1部は、膵管像の読み方について、参考になる総論的なことが記されており、A) 正常膵管像、B) 膵癌、C) 膵炎、D) その他の膵疾患 (1) 奇形、2) 乳頭部癌、3) 外傷および切除膵、4) 膵外病変) に分けられ、それぞれ参考となる貴重な解説が記されてある。たとえば、膵管の走行と、その位置の

年齢による変位、主膵管の径の正常範囲、各種疾患時のこの変化、膵癌の膵管像よりの分類、膵癌・膵炎の鑑別診断、慢性膵炎の本法所見による鑑別診断、PS 試験との対比、剖検所見との対比など、両グループがこれまでの学会で発表してきた研究データがすべて記載されている。

そして第2部には、実に豊富な鮮明な膵管造影の写真が掲載されており、その各々の症例の臨床経過、血管造影像、病理組織などとの対比とともに、膵管像についての詳しい解説とコメントとが記述されている。

したがって、本書は初心者に役立つのみでなく、われわれ長年、この方面にたづさわってきた者にとっても、実に多くの参考になる内容を含んでいる書物である。

最後に、われわれの御兩人に対するお願いは、このような図譜が、日本の臨床家の範囲で読まれるのでは実に惜しい感がしてならないので、全世界の学者が、この本から学べるように、一日もはやく英訳本を出してほしいということである。

B5 頁190 図32 写真214 1979
¥8,500 円300 <医学書院刊>